

美しい町を未来へつなぐため、私たちができること。

環境にやさしいごみ出し

しっかりと分別すれば多くの資源を回収することができます。そのためには皆さんの協力が必要です。ごみ出しのコツをマスターして環境にやさしい暮らしを始めませんか。



今日からやってみよう！6つのごみ出しのコツ

様々な種類があるごみ。ごみ出しの方法にも多くのルールがありますが、ここでは代表的なコツを紹介します。

分別して捨てる



分別しないと焼却や埋め立てに余分な処理費用がかかる。分別により再生利用が可能。

生ごみは水切り



水分を切ると量が減るだけでなく、臭いの発生も抑えられるという効果がある。

リサイクル家具



きれいな家具は「リサイクル家具」と明記。リサイクル工房で修理後、販売される。

汚れを落とす



汚れがついたままだとリサイクルの妨げに。洗ってキレイにしてから分別へ。

自転車には「不用品」



放置・盗難自転車と区別するため、粗大ごみとして出す場合は「不用品」と明記。

リサイクルボックス活用



小型家電はリサイクルボックスに入れてレアメタルを回収（役場・藤久保・竹間沢公民館）。



古い着物などを再利用してパッチワーク作品を作る「パッチワーク陽光」の皆さん。会員も募集しています。

①サークルの皆さんが家の中を探したり、知り合いから譲り受けたりして集めた布地。古い着物や洋服をほだいて再利用しています。メンバー同士で分け合って使うこともあり、再利用の輪が広がっています。②この日作ったのは来年の干支・牛の置物。小さな布も余すところなく使います。



人と人のつながりで広がる、循環型の暮らし。「人も資源も循環するまち」へ。環境を守るための大きな力となるのは、「ごみを出さないこと」。環境のために「循環型」の暮らしを始めませんか。

古い布に新しい命を

藤久保公民館では、住民が主体となって楽しくリサイクルを行うサークルが活動しています。設立36年のサークル「パッチワーク陽光」は、古い着物などの布地を使い、繊細なパッチワーク作品を制作しています。「生活の中で材料を探しているので、再利用できるものはないか、いつも考えています」と話すのは講師の山浦さん。小さな

これから先の未来にも、美しい環境を残すためには、ごみを出さないことを意識した「循環型」の暮らしをすることが大切です。町では「人も資源も循環するまち」をめざし、住民・事業者・町による協働や住民同士の関わりを原動力とした環境対策に取り組んでいます。

小さな工夫が大きな力

マイバッグを使うことや壊れた物を修理して使うことなど、ごみを出さないためにできるこ

とは身近にたくさんあります。三芳町に古くから受け継がれる武蔵野の落ち葉堆肥農法も、生活の中で生まれた循環型の智慧の一つ。小さな落ち葉でも、集めればおいしい野菜が作れるように、毎日の小さな工夫が未来の力になります。今年の年末は、身近なことから、環境にやさしい循環型の暮らしを始めませんか。



三芳町に受け継がれる落ち葉堆肥農法も古くから伝わる循環型の智慧。資源を循環させ、持続可能な生活を送ることが環境を守ることに繋がります。

持続可能な開発目標 SDGsで環境を守る

環境問題や貧困など、世界の問題を解決するため、国連で採択された国際目標「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals SDGs[エス・ディー・ジーズ]）」。町ではSDGsに取り組みたい個人・団体などへの応援を行っています。

詳しくは、役場4階 政策推進室 ④424
みよしSDGsのホームページはQRから

